

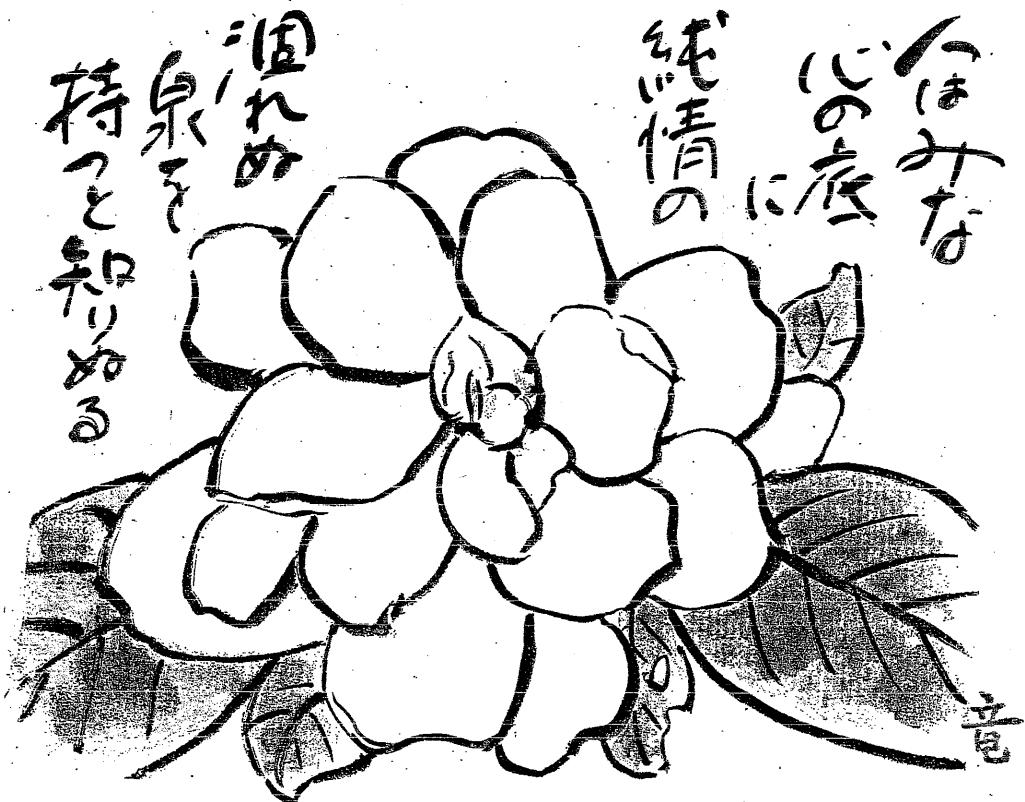
オリーブの樹

第118号

2013年7月14日

شجرة الزيتون

早期釈放！ 重刑策動をはね返し、重信さんを支えていこう！



目次

- P 2 曇中お見舞い 重信房子
P 3 5月6月の歌 重信房子
P 4 独居より 重信房子
P 15 読んだ本のこと 重信房子
P 17 日々雑感—2 萩尾遠
P 18 アラブ物語23 「パリ事件」ハーグ闘争から日本赤軍結成へ
—74年(1) 重信房子

五月六月の歌

重信 房子

獄に咲くみやこわすれの面影は浴衣の母と打ち水の庭

すずらんの残り花咲く細き道夏に向かつて囚徒の行進

房検査終えて戻りし独房に幽々匂う化粧の香り

かそけ

胸焦がす。プリュターグの匂い断ち切つてローマを発ちし君五・三〇

三回戻終えし夕間に音一つあたかも君が戻りし如くに

紋白蝶梅雨の晴れ間の風に乗り獄の堀越え自由へ飛び発つ

言挙げしわが思ひ届かぬ哀しみに梅雨に濡れ咲く紫陽花見にゆく

砲弾に壊れしビルの隙間からブーゲンビリアは今花盛り

塹壕に戦士の挿したるひまわりは風車のじとく風に戦ぎぬ

暑中お見舞い申し上げます。

いつも暖かいご支援・励ましありがとうございます。

参議選だけなわのヒートアップの裏、脱原発・反戦・平和を求めて走り回つて

おられる皆さん、また、静かに抗議を尽くしておられる皆さんに連帯します。

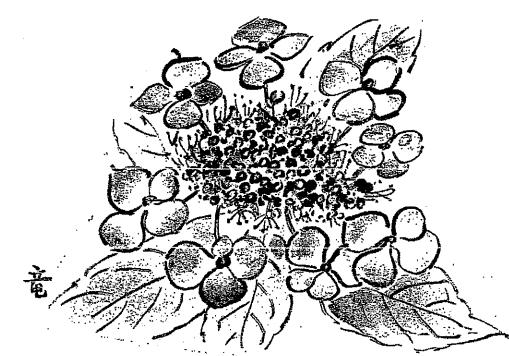
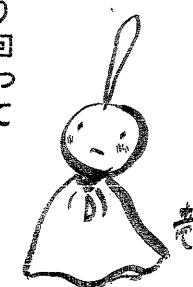
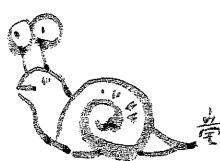
私は、お薫様で、二〇〇六年の癌発見以来、手術、抗癌剤治療を経て、七月三日、主治医より「今のところ治癒」、治療は終了」と告げられました。

海外に出て以来、何度も捨てては拾つてきた命です。また、命拾いをしました。

再発の可能性がありますが、みんなとの繋がりがある限り希望があり、癌欲は尽きません。好奇心をもつて、これから新しい場で生きて学びつつ再開を目指します。

皆様のご健勝を祈りつつお礼方々のご挨拶とします。

房子



独居ふい 5月9日～7月8日

今日は主治医の診察で治療の終了を伝えられました。

移監に備え荷物も整理していくかないと……と思っているところです。(7月3日)

重信 房子

5月9日 5月はリッダ斗争、パレスチナのナクバ、そして今年は丸岡さんの三回忌。

先日の友人の手紙を思い返しています。77年ダッカ斗争の件で、国が丸岡さんに対して、「24億円もの損害賠償」を請求していたこと、それが死亡した丸岡さんの妹さんに引き継がれるとのこと、兄の「相続放棄」の手続を行ったと記されていました。それには妹さんやHさんら友人たちが奔走し、苦労されたことなども記されていました。うかつながら、初めて知りました。

アラブに居た時に、「ダッカ事件で損害賠償請求検討」といった記事を見た記憶はありました、その後裁判で、丸岡さんに24億円の請求がされていたことは記憶になかったのです。アラブで日々活動する中、日本の情勢や資料も十分にないため、また国内の友人たちからも聞いたことがなかったし、2000年に逮捕されて東拘に居た間に、弁護士・友人たちの面会や手紙でも聞くことはなかったのです(当然知っていると前提になっていたのでしょう)。友人の手紙に何かの間違いではないかと思ったほどです。ちょうど面会にみえた大谷弁護士にたずねたところ、大谷先生も丸岡裁判にかかわっておらず、つい最近知ったとのことでした。知っていたら、私にも当然話したと言つておられました。

くわしいことはわかりませんが、何よりも自らの怠慢を自覚し、丸岡さんのご家族・妹さんにお詫びしなければ……と思いました。アラブの厳しい中で情報が乏しいとはいえ、そういうことをフォロー配慮しえなかつた自分たちが、兄の死の悲しみの上に追いつをかけるように、妹さんに、私たちの責任を今も押しつけてしまったことは、何と恥ずかしいことでしょう……。

丸岡さんの納骨のあと、2011年秋の終わり、面会に訪れてくださった妹さんとの面会が拒まれ、お兄さんを生きて妹さんのもとに帰せなかつたこと、長いアラブでのこと、お詫びしつつ伝えることも叶わず、再び私たちの責任まで負わせてしまつたこと謝罪します。そして、妹さんを支えてくださつた友人たちにお詫びと感謝を伝えます。

丸岡さんの三回忌にはアラブのあの真紅のアネモネはないですが、真紅のバラを思いを込めて送ります。

5月12日 今日は大相撲夏場所初日。幕下の「大砂嵐」が白星です。前にメイの友人がメイたちの写真を送ってくれた中に、「何この人?」という大柄な浴衣姿のアラブ人。アラブ関連の若者たちと初のエジプト人力士大砂嵐を囲む励まし食事会でした。それで私も「じやあ私も応援します」と伝えていた大砂嵐です。今日勝ちました!

また今日は『はだしのゲン』読みました。反戦反核の精神はまぎれもなく伝わる本ですが、それ以前にたくましい生きざまに感動します。権力の戦争政策に屈しなかつた父と子。ゲンは何事にもへこたれずに道を拓き、やれるることは何だってやり、人々と率直にぶつかり合い、人を信じ人間の人間らしさを求める姿。諦めない生きること自体への喜び、逆境でも生きるぞ!という力が湧きます。私の幼時の戦後のかすかな記憶の「世間」の姿と重なります。でもゲンに似た子はアラブにたくさんいてたくましい。そして人間性がある!多くの人が読み継ぐ理由がわかります。感謝。

5月13日 曇り空ですが、ラジオでは関東は夏日のこと。

今日は部屋検査。いつも注意されることは少ないですが、今日は数字や公式などを書き散らしたやれ紙を本に挟んだままにしないことと「指導」されました。新聞の「中学の学力テスト」に熱中した跡ですが。デジカメ歌人の「立夏」は、はためく鯉のぼり。「風抱く」と写真に添えられたキャプションと4首。“水入りて一夜明ければ一面の青映す田のすぐ傍に田植え”などです。Uさんはスズランや藤が盛りの四国の5月を伝えています。

5月14日 今日は各地で夏日。晴天の青い西方の空を見上げて、「パレスチナのナクバ」のことを考える朝です。この日、イスラエルは1948年、イギリスの統治終了と同時に、「イスラエル建国」を宣言しました。それまでに、ユダヤ武装グループはパレスチナ側に分

割される予定だった各地で、すでにパレスチナの村を襲撃してはパレスチナ人を虐殺追放してきました。全パレスチナ占領をもくろんでいたのは間違ひありません。このイスラエル建国からパレスチナはさらなる戦場と化し、いわゆる第1次中東戦争に至ります。米政府の助けでイスラエルがシリアのゴラン高原、エジプトのシナイ半島を占領するのは67年の戦争です。今もパレスチナは親から子、孫へと厳しい弾圧の中で斗っていることを、この日にはとくにアラブの人びとは心に刻みます。ナクバの5月、リッダ斗争が「ディール・ヤシン村虐殺に対する報復作戦」の作戦名で斗われたように、5月は多様な形の反占領斗争がいつにも増して斗われます。平和って、パレスチナのよう人にとしての生き方を全力でするために斗うことなのだとしみじみ思います。

日本でも生き方を斗いとることが脱原発、憲法をめぐる切実な時となっています。土曜会の友だちや関西ではTさん米澤さんMさんたちのがんばりが浮かびます。

5月15日 今日沖縄はもう梅雨入りです。運動場に出るとツツジやタンポポの綿毛や花びらがあちこちに散り散っています。2周走ってウォーキングし、最後は芝の上でクローバー摘み。みな汗一杯の太陽にもう夏だ!と楽しんでいます。

午後、丸岡さんの三回忌が行われる知らせを読みました。6月1日京都、妹さんの名で行われるものです。三回忌の丸岡さんを思い出しふと笑いがこぼれました。「6月は好きな歌、やつと一曲歌える歌がある」と歌ってくれるので。が、どんどん音程が低くずれて毎回收拾がつかなくなるのですが、本人は歌いきってニコニコ。「そんな節だっけ?」と毎回いわれていた歌「忘れまい六・一五」の彼の声が突然耳の奥で響いてきたのです。三回忌。お詫びと共に笑ってしまうたくさんのエピソードを語りたいのに……。いつかきっと!

資料や「救援」や「民主文学」5月号、6月号、冊子など届きました。宮崎先生「五・一五」の8句受け取りました。“國憂う志士は嘆くや土の中”“老いし吾独り空しく憤る”と今を憤り、五・一五の時代を振り返っています。私も父を思い出す五・一五です。Tさんは“やわらかきバラに雨降るやわらかく”。5月のバラはとくに美しいですね。

5月17日 今日は毛布1枚、冬物カーディガン、厚手下着は引きあげです。

「オリーブの樹」117号受け取りました。感謝。5月リッダ斗争、「ナクバのパレスチナ」の時。表紙のこの一首は『革命の季節』の終りに詠み記した歌です。あやめ(花菖蒲)をこの5月の表紙にリクエストして、みごとな力強いあやめを描いてくださつた! 何度か季節はずれでも「寒あやめ」をユセフ檜森さんが東拘に居た頃差し入れてくれました。だから5月を思うとあやめが思い出されます。それと5月はベイルートの真紅のケシのようなアネモネ。日誌の字ばかりの読みにくさ、竜子さんの絵がほっとさせますね。

『革命の季節』の書評ありがとうございます。大谷先生過分に、そして直球の心のこもった感想も含めて書いてくださいました。また旧友の小西隆裕さんありがとうございます。遠くから共感の励まし嬉しく読みました。海外に在つて日本を見つめた時、共に日本で斗つていた同志たちのことに激しく心動かされつつ、日本の斗いに頼れないと知った時(連赤事件)、私たちと同様の思いだったでしょう。世界の現実の持ち場で斗いつづける分、共感や生命をかける斗いを感想に込めておられます。赤軍派時代のポジティブな遺産もありました。「無私の斗う心」にあふれていたことです。書評を読み返しつつ、またリッダの戦士たちのこと、今の小西さんたちのこと考えています。時代を共にした仲間として書評を受けとめ、小西クンたちの斗い、共に支え合つていきたいと思います。

またMさんのリッダ斗争の頃のこと、初めて知つて感概深いです。あの頃、滝田さんと一緒に居て連合赤軍のこと山田さんの死を知つたのですか。Mさんにとつて人生の岐路になったのですね。もしかして、パレスチナで出会つていたかも知れないと楽しく想像しています。それから丸岡さんの本の広告が出ていて、「ギヨ!」と見ている私です。2011年に書き留めていたノートの一つのエピソードが載るかと思ったら3つとも……。まあ、本が丸岡さんにとって読者にとって、良いものになればいいわけですけど。

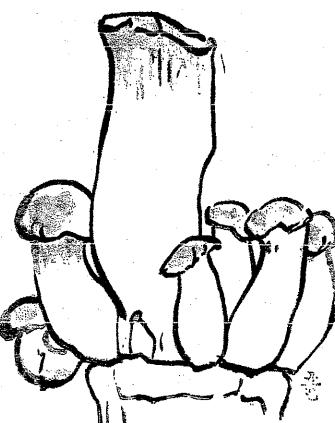
また「オリーブの樹」読み返すと、日誌はごちゃごちゃしているし、長すぎて読みづらいですね。(日誌の中の書評など囲み別枠にするとか、個人的なのは私の方で書いても、「オリーブの樹」には省いた方がいいなど、「自分への手紙は載せないで!」と友人たちからも助言・注文されています。) まだ今後、長い間「オリーブの樹」が交流の紳となりますので、読みやすく、読む気がおきる内容も友人たちの協力を得て育てたいです。

5月20日 朝刊では内閣支持率が上昇して65%とのこと。石原や「維新」含めて、70年の実感までしかない私には、あの頃の「右の異端者」が世論の「常識」となって、社会の軸が右プレしたまま通用しているのは「現実」なのに現実感がない。「現実」は変わるのは。だって人々の志向性に沿わないメディアや政治の幻想、続かないでしょう？！と思いつつ……続くんですよね……。下から横へ、今一番大切なことにまた共同する市民国民合意の連合を育て、暮らしの文化生活の中から反撃の広がりを！と思ってます。

午後は主治医診察とCVポートのフラッシュ。私から「こここのカルテは、私が他に移監にならぬ保管しておいてくれるのですか？」と尋ねました。「一般社会と同じで、5年ということになっている」とおしゃり、私の話を聞きながら、「刑の満期までは捨てないかもしれませんね」と。正確には不明でした。今後は弁護士などにも聞いてみたいです。

Kさん「オリーブの樹」読んでくださってありがとうございます。お連合いとの楽しさがこぼれる写真も受け取りました。彼は若い時のみますね。ブントの学生運動時代、「カマチ天皇」と東京まで仇名が響いていた人ですから。「毎日のニュースで日本の政治家の品の無さにがっくりします」。本当に！何とか変えたい、変わってほしい日本です。「美しい日本」などという人たちこそが、汚している日本です。

宮崎先生、88歳を控え、「4月からゲーテ・インスティチュートにドイツ語の講習に通い始めました」とのこと。ドイツ留学し、ドイツ語で法学を読み、ドイツ語で訴訟文も書く先生が、教えるのではなく学ぶ方ですって？！“辞書を引く判らぬ単語無尽蔵”と句も。脱帽し、私も勉強します。



5月22日 「小満」を過ぎて万物が満ち田植え時です。グラウンドに出ると「ほら見て！これきれい、何という花」と聞かれて芝生の真ん中に行くと庭石菖がたくさん咲いている。子どもの頃の馬事公苑の寝ころぶ芝に点々と咲いてた花！うれしくなりました。「腰痛で今日は1周だけ走る」というと「よし！私は5周！」と若い人。「あ、昼顔！」春紫苑とタンポポの間の一角にみごとな昼顔が咲いています。椋鳥の子どもたちも恐れず遊んでいます。

午後、姉と義姉の面会。体調を崩していた姉は少し良くなつたみたい。あれこれ私が頼むので無理させてしまい、「ごめんね！『ガンサポート』5月6月号購入お願い」と、ごめんと言いつつ、他にあれこれ頼んでしまう。いつもあつという間に時間が足りないままのお別れ。

「世界遺産」「サイゾー」。それから竜子さんの水彩の「オリーブの樹」の表紙のあやめのハガキと「踊り子草が庭のあちこちで踊りはじめました」と踊り子草の絵ハガキ。いつもこの彩色のハガキがたのしみです。これは幸運にも私が健康で社会に戻ったら、「オリーブの樹」表紙絵展を何かの機会に持ちたいです。

5月24日 今日は教育的処遇日。運動は室内体操です。入浴以外は休日同様で読書に最適です。丸岡さんの本、彼の葛藤をとらえ返しつつ読み進めています。

お便り感謝。MさんYさん宮崎先生Uさん他。未知の19歳の自衛官の少年から『革命の季節』を読んだ感想と質問、義勇兵への参加の夢を持ちづけている若者です。Uさん、『パレスチナ問題とキリスト教』、「オリーブの樹」117号を読んで買って読んでみますとのこと、良い本ですよ。「昔『赤軍罪』というのがあって、なんでもかんでもパクられた。70年、京都府役所のバラを一輪摘んで、窃盗罪で捕まった元気で美しい同志社の子、覚えてますか？」と、バラの季節に。いろいろあったなあ……。

5月25日 土曜日。朝刊見たら、「大砂嵐幕下全勝優勝 初のアフリカ大陸出身 十両昇進確実」の記事。本人も応援団もアフリカよりアラブ・エジプト人意識でしょう。アラブ語の砂嵐は「ハマーフィーン」。今ちょうどこの季節の時です。これから四股名を付けたのでしょうか。優勝してよかったです。

先日届いたMさんの手紙、週末に再度じっくり読み返します。愛犬ボブリーが亡くなったこと、ご愁傷様です。喪失感で一杯でしょう。何と記したらいい

かと記せずにいました。6月で13歳になるはずだったボブリー。N家の中心だったのに。まだ東拘に私が居て、彼からの手紙も禁止されていなかった頃、彼も自慢のボブリーの大きく引き延ばした写真を送ってくれましたね。M子さんは思い出をいっぱい残してくれたボブリーを哀悼しつつ、「チエもいますし、ピリ、リル、アコちゃんも居ます」と、自らを励まし、たちなおってますね？！6月脱原発行動も連帯！

また土曜会のみなさん、6月1日会合連帯。ちょうど経産省前テントのこと焦点になってきますね。R介たち、裁判など脱原発行動と共に大反撃を！土曜会のみんなの微力が有効に育ちますように。

5月27日 今日は半袖のユニフォームを受け取りました。八王子も暑くなっています。今日もお便り感謝。Mさん、いっぱいありがとうございます！「御福の集い」横浜の様子、絵もなかなかです。Mさんこちらこそありがとうございます。出版も訴訟も弁護士友人たちの支えの中、T子さんも“楽しみつつ”肩の力を抜いて、いつもの昔の69年70年会った頃の素直ながんばりですね！

5月29日 曇り空。風が強く寒さを感じる朝です。今日は丸岡さんの命日です。この季節のこの朝、少し離れたこここの病棟で丸岡さんは苦しみと斗いつつ旅立ったのだな……。窓の外の風に騒ぐ桐の緑の枝を見つめつつ合掌。「三回忌」東京では5・30の集いの中で、京都では6月1日です。

今日は梅雨入りしても降りそうで降らないうちにグラウンドへ。風は強いけど、寒さは去って、さつきの花がいっせいに盛りとなり、昼顔も庭石菖も咲いています。

午後は映画鑑賞「空飛ぶペンギン」というアメリカ映画。ペンギンが人間と心を通わせ、崩壊の危機にある家族が和解していくというもの。ペンギンの演技はバツグンでした。でも「うーん……」という感じ。夕方には資料やお便り受けとりました。Sさん久しぶりの力強い筆遣いの文ありがとうございます。Uクン、メールを使ってないのですってね。メールは使ってください。ネットもね。60歳代年齢の仕事するおじさんの必携アイテムでは？いつもお便りありがとうございます。

5月30日 昨日より風強く暗い朝。雨が降りだして八王子も入梅の実感です。

今日は「リッダ斗争記念」の「5・30」。実際の斗いは日本時間では31日明け方のことです。今日はバ

ーシム奥平たちの墓の写真も机に出し、『革命の季節』『丸岡修自述』(そこにも写真があります)、それに『日本赤軍私史』も取り出して読み返しています。

私たち日本赤軍はリッダ斗争と同時に立脚点でもありまた団結の方法でもあった「自己批判の指導性」をいつもこの日に確認し合ってきました。「自己批判の思想」とか「自己批判の指導性」は、バラバラだった自分たちの日常活動の中からつくりだしてきたものです。簡単に言えば、相手の立場に立って、自らのあり方を正しながら団結を求め、問題を解決していく組織原則です。

70年代、リッダ斗争後、結集した私たちの友人仲間たちは「左翼」という経験の人は少なかったのです。みな「やる気」ある「いい奴」なのですが、なかなか団結できない。会議を持つようになつてもうまく噛み合わないことも多かったのです。うまくいく時には涙ぐましい団結の仲間ですが、失敗した時にうまく団結して進めないので。うまくいかない人の思考方法をみてみると、問題にぶちあつた時、①事実を「自分にとって」の一面からしかみない②その原因を内在的にとらえず、とらえ方が外因、他者や情況のせいにする③そのため問題を解決するつもりで責任追求する④紛糾するか、追求された人は落ち込んで解決できない。そんな感じです。だから、「自分の問題としてとらえよう、たとえ99%相手に非があると感じても、まず自己批判的にとらえて謙虚に問題解決を図るよう働きかける」ことを原則としました。(でもある仲間が日本に帰って[70年代ですが]自己批判的にとらえたら「おまえ、今頃わかったか？！」と相手の反省をひきだせず増長させてくやしかった！」などということもありました。)そういう方法でアンチテーゼでなくジンテーゼを！と団結をつくりました。

80年代には「総括五つの定式」として、それを私たちのルールにしています。①起こった事実を多面的にみる、社会的・客観的事実をつかむように努力する②なぜ起きたのか？「過去となった事実」の原因を多面的にとらえる③今からみると、どうすれば良かったのか？④ではなぜその時そうしなかったのか？出来なかつた外的内的原因、個人的組織的根拠を捜す⑤今から④の中から示された点を是正するよう組織の計画に取り入れるといった「総括方法」です。「自己批判の思想」といっても、それまでの生活から自然に相手を慮ってそう出来る人もいます。またそうでない人もいました。

「5・30」はリッダ斗争と共に自らのあり方をそ

ようにとらえ返す日として、「解散」した今も大切にしたいと思います。「自分を変えることなしに、世界を変ええない」と自分の無知さ、無力さを自覚しながら前向きにすべてを学び生きて斗うことを誓った5・30。初心にかえって、また前向きに進みます。

『革命の季節』を読まれたリッダ戦士の親族から、「自分が死ぬまでに一度房子さんと会いたい」という連絡もいただきながら果たせぬまま今日を迎えてしました。そんな便りが届くと、『革命の季節』を出版してよかったです。面会は難しいかもしれません、ペイルートのリッダ戦士たちの墓の写真は届けたい…と考えているうち5・30です。バーシュの最後の手紙、ローマからのに「少年時読みふけたブリュータークの思い出が町の至る所で僕を熱くさせます」とあったので、ブリュータークの本を取り寄せて、今日届いたので、夜は少年少女の読んだ「ブリューターク英雄伝」を読んでみたいと思います。

5月31日 午前中姉の面会。「体調悪いのにいろいろ頼んでごめんなさい」と開口一番まずお詫びです。三回忌の件などまで頼んでしまった! 今後は「ファミリーマスター」だけにします、と約束しました。

Y先生は香港からお便り。香港の学会で山口淑子さんについて発表し、彼女の訪れた1971年のパレスチナ難民のドキュメンタリーをスクリーン紹介したり、フィールドワーク。「日本は亡命者や難民を認めない限り、人口減少あと50年で確実に減びてしまうと、シンガポールの首相が語ったのは正しいと思います」と、外からの方が、日本がどんな問題をどう解決すべきか見えることが多いですね。

Hさん、資料送ってくださったとのことありがとうございます。三回忌の成功を!

「緑照る白鳥越えに巨(おお)きなる雨降るような藤の花房」。デジカメ歌人の7首から「小満」の一首。写真は本当に雨降るごとく、緑の樹々に山藤が覆いかぶさる咲きよう。今はそうだ藤の季節ですね!

今日は午後コーラス。「いきいき生きる」「この広い野原いっぱい」「ずいずいずつころがし」の3曲。大声で歌いました。大声を出して注意されないのはこの歌時だけです。気持ちいい!

6月3日 八王子はずっと晴。入梅はやはり不正確だったような気がする晴続きです。

今日は休み明け、お便り資料感謝。今日は転房になり、午前中に引っ越しとなりました。南向きの前に居

た房。前に居た人が掃除していないみたいで、床も窓、金網も雑巾をまっ黒にしながら拭き掃除。荷物整理して落ちつきました。

午後は主治医の診察。肝機能の軽度の障害がずっと続いているのは、それをチェックするための投薬のせいかもしれないということで、すべての薬(下剤も変えて)をストップしてみることにしました。また大腸ガンだったEMR内視鏡検査を近く行うとのこと。それでOKなら、もう治療も終了になります。いろいろと移監の準備しなければ…と思いつつDrの話を聞きました。

6月5日 ずっと晴天続き。今日もグラウンドウォーキングができました。トラックが乾いていて、ほこりっぽいですが、芝生にクローバーまつ盛りでいい匂いです。午後はTV「金スマ」。

Hさんから6月1日の三回忌の様子を伝えてくれました。とても良い会で近しい方が丸岡さんを語り、また川村弁護士も参加くださったとのこと。妹さんが丸さんの好きだった「時代」を歌われ、なごやかで気持の良い一時を三回忌として過ごされた様子。参加できない私は真紅のバラとおわび方々の挨拶を送りました。

Tさんはちょうど「長野県飯田市に再生可能エネルギー見学バスツアーでやってきました」と、長野からのお便り。それで三回忌は参加できなかったのですね。

Kさん、もう咲いた紫陽花写真! 感謝。

6月6日 夏草の匂いが窓を開けるとさわやか。ちょうど懲役労働の人たちが盛りを終えた春紫苑や伸びた萩の枝、ツツジなどを刈りとっています。ベランダの石竹ももう花時を終えました。もうすぐこここの紫陽花が咲きはじめるでしょう。

今日は茶道。茶道は辞退して届いた資料本を読んでいます。「パレスチナに愛を」のブログをプリントしたもの、「ビッグイシュー」「通販生活」ありがとうございます! 長い間ブログをアップしてくれて、「オリーブの樹」の歌やメインの文などを読むことのできる「パレスチナに愛を」多謝。「ビッグイシュー」も面白いし、「生活者」でない私にとって「通販生活」の内容は興味深々です。

新聞では「安倍政権第3弾の成長戦略大胆な目標」との記事。「10年後に150万円以上、一人あたりの国民総所得を増やす」との指標。現在の政策では格差が広がるかまたは抑えのきかないインフレがきて、中流以下はどうやらしても今よりも実質の所得水準が上

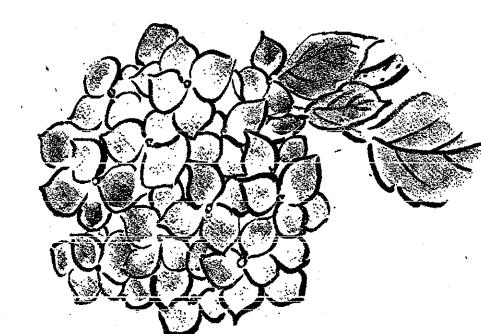
がるとは思えません。5日の東証では518円安の株価が「期待薄」を示していました。国民生活よりも輸出(原発・インフラ・自動車etc)で「強い日本」を支えるのが義務と言わんばかりの国民への犠牲。下層ほど厳しさが加負担の構造です。でも今夏参議選は国民の意志「脱原発や9条改憲阻止」を願う側は準備未了ですね。

6月10日 週明け。曇り空ですが湿度が高い夏気配。ベランダのウォーキングでは汗をかきました。昼に少しだけ雨が降り梅雨らしくなりました。今日は髪をカット。ベリーショートにしました。カットしてもらひながら鏡に写った私の顔はいつのまにか老いた母の顔になっていました。まだ若いつもりだったのに…!

今日はK子さんから嬉しいお便りです。「先日重信さんが、図書新聞に載った水戸貴世子さんのことを書いておられましたので、うれしくなって、そのことを水戸さんにお伝えしました。(「オリーブの樹」もお渡しました。) そうしましたら、水戸さんは重信さんの受けとられるように涙が出たと喜んでおられました」とあり、反原発の運動にもずっとかかわっておられ、「今、水戸さんは自転車の転倒事故で背骨を圧迫骨折! されもう1ヶ月半くらいリハビリ中ですが、近々のデモにも参加します」とおっしゃっています。「それにしても岡本公三さん丸岡修さん奥平さんらのことは忘れることが出来ません。しっかり語り継いでほしいです」とおっしゃっていました」とのこと。図書新聞のインタビューを思い返して、私はまた涙です。過分に応えてくださった水戸さんに、またキューピットおばさん役をしてくれたK子さんに心からお礼を言います。(彼らが島崎さん、『この国で女であるということ』にぜひ水戸さんを入れてほしかった。とっても人々に知ってもらいたいのです。)

またK子さん「6・1、6・2 東京の経産省テント訪問と芝公園の国会大包囲デモに参加してきました」と元気です。「2日の芝公園では明大土曜会の幟を見つけましたので追っかけて行って(笑い) 写真を撮らせてもらいました」とのこと。うれしいなあ! 「さわさわ」の旗手としては「土曜会」の幟持つてもよかったのに。「土曜会」もうれしかったと思う。いろんなところでつなげたり、つながったり、出会ったり、斗いが一つに結びますね。うれしい便りに今日はニコニコ。写真是未交付だけど楽しみです。

6月11日 小雨が降りだしてベランダの運動は中止。



午後に保健課か処遇課の新しい人から(4月に人事が変更になっている)歯科指名医を呼んで治療するにあたって現情について質問を受けました。あとは指名医と日程を調整してくださるとのことです。

その後1週間1回1時間のTV番組の録画観賞。今日は「金沢八景と料理」の番組。

夕方には写真や資料本など受け取りました。K子さん、経産省前女性たちの斗う写真! それに6・2芝公園「土曜会」の幟の写真やデモ集会の写真もありがとうございます! すごい人々の熱氣です。みな若々しい。いい顔です。またちょうど三回忌の写真もうけとりました。美しい丸さんの妹さん中心になつかしい面々がにこやかな表情で写っているものや、妹さんとHさんの歌と演奏ライブ! それに贈った花籠まで。会の雰囲気がわかります。丸岡さんも檜森さんの写真も。ああ、私たちが死ぬまで彼らは生きているな、死ぬことはないなあと、しみじみと感じます。ありがとうございます。

「はなかみ通信」ありがとうございます。札状も書けず、いつも送ってくださって恐縮します。今号の特集は「からだ・病気・いのち考」。じっくり読んでみます。病棟に居る身としては、また「情況」もいつも感謝。「アソシエーション」「選択」もいつもありがとうございます。他資料いろいろです。

6月12日 今日はグラウンド運動日でしたが雨で室内体操に変更。

今日の新聞の「声」欄に私と同年配の方「平和憲法の維持を切望する」とあり、「外地」からの引き揚げた両親から死を乗り越えてきた話を何度も聞かされ、「戦後は憲法9条に守られてこそ平和のありがたさを感じて生きてきた」と、「目には目を」ではなく、「平和憲法を貫くことを切望する」と締めくくった一文。ふと前にアラブに居た頃、このような欄に載ったうろ覚えながら感動した一首「戦争は命をかけても拒むべし

母祖母おみなみな牢にみつるとも”を思い出しました。“9条は命をかけても護るべし母祖母おみなみな牢に満つるとも”の本歌取り風の歌が、この「声」の投書者からもれました。(ちょっと正確でなくごめんなさい)

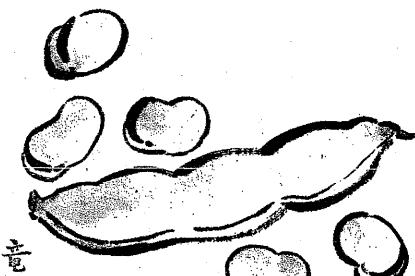
また三回忌の写真いただきました。丸さんの妹さんがのびやかに歌っている姿を見て、あー、丸さんが生きてこの様子を見たら泣いて喜ぶな……と心に響きます。兄の獄中25年近くをずっと支えた妹さんです。また妹さんを支えてくれる友人たちに何もできない私は感謝ばかりです。

Tさん体調はどうですか？朝鮮学校の夕涼みでの舞台など、近頃は歌での参加が老人ホームまでも要請されて楽しみつつ身体一杯では？“スケジュール調整図る梅雨晴れ間”的の句のあとも走りまわっていますか？Tさんも三回忌で元気で歓杯参加(大丈夫)、ガンに

「見捨てられて」元気のようです。宮崎先生、「陽光を浴びてぬるめり畦の水」。句と共に得意の絵も。

6月13日 雨。梅雨らしい蒸し暑い日。

今日は午後講堂で「国府弘子ジャズライブ」がありました。1時間半ほどでしたが、国府弘子さんの自然体の飾らない話につりこまれながらジャズを楽しみました。「A列車でいこう」「星に祈りを」のあと、彼女のオリジナルの静かな「忘れないよ」、そしてやはりオリジナルの迫力の「ジブシーバロック」のジャズ演奏。会間に語りかけたりして、次の「きらきら星」でバイオリンの早稲田桜子さんも加わってジャズのミニ学習。「ワントウ ワントウ」のリズムからボサノバ、サンバを教えて、ジャズは自分流にまちがってもいいから自由に楽しむことと教えてくれました。それからバイオリンを主にした「ノスタルジア」、最後は大迫力の「スペイン」演奏は圧巻。「アンコール」ではみな一体に「テキーラ！」と合いの手を入れて楽しんできまし



竜

た。大雨の音をとりこんでのジャズライブ。国府さんのキャラクターの良さが、良い一時をみんなに与えてくれたようです。こんなジャズライブは刺激的です。

新聞では「米政府がネット上の個人情報を極秘調査していた」とを、元CIA諸君が告発した概略が伝えられています。オバマ政権はその行為を正当化。ブッシュ政権時代に始めたネット上のメールや動画などの情報収集をするプログラム「PRISM」などを使い、1日数百万件の通話記録を集めています。マイクロソフト、ヤフー、グーグル、フェイスブックもアップルも協力していたとのこと。もともとこれまでやつてきたことを、ネット社会にそって拡大していったのが、たまたま氷山の一角が暴露された状態です。告発者スノーデン氏は日本でも勤務していたとのこと。米国に異議を唱えたり、米政府が利害を感じる企業や人物の情報は丸裸。

中東時代のいろいろの事件でも、いつもこうした盗聴記録はずっと保管して、あるきっかけでひるがえつて追跡するのが「大成果」をあげていました。イスラエル諜報機関と一緒に。

日本の株も通貨も投機対象で高乱下。原発の輸出や再稼働、大企業の減税に反比例して生活保護の削減など安倍政権はマスコミ首脳を抱きこんで、国権強化を「弱者」切り捨ての中で進めています。“国益”というあいまいな理由の中で、ソフトに無慈悲に。

6月15日 めずらしい晴間。今日は樺美智子さんが国会請願デモ中に、警察暴力によって殺された日。60年安保の日と同じように、この日は毎年雨になることが多かったのですが、今年は八王子は晴。今年もまた国会前の献花や60年安保反対闘争の意義が語られているでしょう。今の政治こそ変えねば！と。

新聞では、米政府が「シリア・アサド政権が化学兵器を使用した」と発表し、反体制派への武器供与に道を開いたとのこと。マケイン議員は「巡航ミサイルをアサド政権側に撃ち込むべきだ」と声明し、「G8サミット」でシリアへのさらなる武器解禁含む介入の準備が進みます。もちろん安倍政権も同調。それを合図のように13日からカイロで行われていたスンニ派の世界イスラム会議では「シーア派の攻撃からイスラム世界を防衛するための聖戦」を呼びかける声明が発せられています。アサド政権、反体制派「双方の化学兵器使用」の問題は巧みに変化し、イラクの解体を促すように、政権打倒と宗派戦争が進められています。米国・イスラエルの思惑のままに、イラン、シリア、レバノ

ンのヒズブッラー、イラクのシーア派勢力の「反イスラエル反米」の解体(中東のイスラエル中心の資本主義化へ)をめざすようです。でも、これまでもそうであったように、武装はアルカイダ系の勢力を拡大し戦乱は拡大する一方で、住民の犠牲を強いものです。

6月17日 今週から入浴が週2回から3回です(月水金)。ペランダ運動を終え、10時半過ぎに入浴中「面会」の知らせ。少しあせりつつ入浴を終えて、髪は濡れたまま面会室へ。渡り廊下にはみごとな青と紫の紫陽花と顔アジサイも咲いています。汗を拭き拭き姉と面会。頬んでいたガンに関する本など差し入れてくれて、指名医や内視鏡検査が今週あると思うことなど話しているうち30分。いつもありがとうございます。

今日は午後、Yさんから「土曜会レポート」も届きました。オーッ！ N和尚がタブレット端末を使ってます！「ピックリです。でも使い始めたばかりなので試行錯誤の段階のようです」とYさん。端末にクラケンの切絵展の作品や孫の動画。それをのぞき込むクラケンとホンマ。次回の報告では和尚に続いて「電腦使用」のクラケンとホンマの写真が見たいです。また「柏崎・刈羽原発現地交流会」報告や「川西町のおもいで館」活動などの土曜会相互報告。加えて米澤さんの語りを中心に由井さんがまとめた本『ぼくは満員電車で原爆を浴びた』が7月に小学校から出版の報告。本の「はじめに」では米澤さんの友人の小出裕章さんが推薦文を寄せててくれているとのこと。土曜会で米澤さんが話してくれたことが出版のきっかけになったものです。由井さんから「土曜会メンバーは買う義務あり！」とプレッシャー。そうです。当然！ 加えて、その縁のはじまりを作った「さわさわ」の友人たちも買う義務あります。由井さん米澤さん良い本をありがとうございます！ また土曜会で『丸岡修自述』も宣伝してくれて感謝。土曜会はいいなあ。政治もあり、なごやかで、何だか昔の雰囲気のまま。68年頃の自治会のように一人一人が信頼し合って、自発的に連帯交流していたのを二重写しつつ描いています。

デジカメ歌人の樹間の間に耀くように咲く九輪草、きれいですね。“陽を吸いて空に昇らん九輪草小暗き木々の日なたに群れ咲く”。

6月18日 蒸し暑い真夏日になりました。今日のTV観賞は「ガリレオ」。どうか、こういうのが流行るのか。少し学芸会風ですね。でもバラエティよりいいです。

M子さんお便り資料感謝。愛犬ボブリーの喪失感はひきずりつつ前向きですね。愛犬チエちゃんや猫たち、それに2階の雨戸の戸袋に椋鳥が巣を作つてひなをかえしたところの写真も！ のどかな地域・豊かな生活ですね。

5・30の東京にも6月1日京都三回忌にもNさん参加ありがとうございます。

「フォーリンアフェアーズ」や資料これから読みます。山本さん校正文ありがとうございます。5・30の様子伝えてくれてありがとうございます。写真あったらいいのに。ちょうど届いた「救援」に『丸岡修自述』の書評、好意的に受けとめてくださいって嬉しい読みました。

6月19日 今日はペランダに夏の花が届きました。ベゴニア、紫陽花、ゼラニウムの赤の3鉢です。花を愛でながらウォーキング。午後主治医から大腸内視鏡検査を6月27日に行うこと告げられました。これで問題がなければ治療は終ります。

Mさん足を痛められたとのこと。「健脚」を酷使しそうですね。エスカレーターもエレベーターも使わずに階段を使って東京で1日1万5千歩以上歩いたとのこと。それはやりすぎでは？！ でも痛みより、そこから「文明論」になるのがMさんらしいお便りです。どうぞいたわってください。『沖縄ワジワジ通信』金平茂紀さんありがとうございます。沖縄タイムス連載に対談を加えてまとめた本。「沖縄から日本がよくみえます」の帯のことば、距離は違つても「パレスチナから日本がよくみえます」と、過ごしてきた視線を重ねて読みます。Nさん、「オリーブの樹」編集室のコンピューター修復協力感謝。友人から文面は公表しないようにとのお便りもあります。私の発信枠が少ないため、日誌に書いたりしていますが、「書かないように」という友人などについては、これまで日誌では書いていません。今後も書く時に気をつけますのでお便りお待ちしています。

6月21日 夏至。青空の夏至を期待したのに小雨です。昨日に続いて屋外運動は中止。6月は梅雨の紫陽花もきれいですが、樹々の白い花が耀くのがいいですね。さまざまな白い花、ウツギスイカズラ、ヤマボウシ、朴の木、泰山木、くちなみ。ここではグラウンドに行く道にクチナシが咲きはじめる頃です。Uさんのお便りにも梅雨の庭の紫陽花の様子がいきいきと描かれています。写真もありがとうございます。

6月25日 昨日は降りださないうちにベランダでウォーキングできただけ、今日は梅雨らしい雨。なつかしい旧友の手紙ありがとうございます。厳しい日本の“弱者切り捨て”“格差拡大”の中で、逆に「人を大切に思い助け合って生きていく心をもって生きられる場をつくりつけてきた」こと、障害者や自然と農業が結びついた就労支援など、良心的事業として発展しているとのことです。みんなが支え合って仕事をしている姿はとりわけ嬉しいものでした。

資料お便り、またガザのPFLP集会の写真も受けました。感謝。

6月26日 明日の人腸内視鏡検査のために、今日はメディエフ（栄養ジュース）を3食共飲んで食事なしの準備です。降りだした雨は今日も梅雨らしい季節です。

午後は面会室に向かうと小雨の中紫陽花がまっ盛りです。面会室に行く渡り廊下が屋外となり、紫陽花を楽しむことができるのです。体調も良くなつたという姉と、家族の話や明日の検査の話など楽しく笑い合いました。

房に戻って、ちょうどTさんのお便りと写真受けました。元気で地域での介護の職場の本音で楽しそうな姿、「いつも現思研時代の心意気でやっている」というTさんの姿は、何十年前の学生時代の「現思研」と重ねて想像します。それにKちゃんがもう小学1年生でしたか？！“ランドセル身体半分隠したる希望背負って卒入学式”、いい一首です。「さわさわ」で初めて短歌をつくりはじめたのを思い出しつつ、Kちゃんの可愛い写真をみつめています。それに、Yちゃんという男孫も去年生まれたのですね。おめでとう！「生まれた時は1470gの未熟児、現在は体重標準に身長がもうすこし。すこぶる元氣！」。もう1歳かと思うくらいです、鯉のぼりにかぶともかぶつて。孫には、子育ての時には自分も生活や活動に夢中で見えなかつたことがよく見え、子育ての反省も込めて愛一杯になるでしょう。子ども、孫から元気をもらっていますね。

（いつも歓迎、いつでもお便り楽しみです。また書いてね！）

6月27日 朝6時過ぎから腸の洗浄でムーベン2リットルを飲み始めるため起きました。空は久しぶりに快晴。それだけで気持が晴々です。9:00頃までに2リットルを飲み、9:30過ぎには準備を終えました。10時過ぎに検査のための病棟へ移動。4月

18日にEMR内視鏡手術をしてくださった外部からの専門医の先生がすでに待機していてすぐ開始。前半はモニター画面は反対側で見にくかったけど、後半は仰向けに身体を直して腸内にカメラが入りやすいように姿勢を変えたのでよく見えました。ポリープを取った痕など示しながらていねいに検査してくださって、結論的に、今のところ新たなポリープは発見されませんでした。「今日のところポリープなどはないと思います」とのこと。ホッとしおれを言って終了。11時には検査を終えました。房に戻って水を飲んで一息。12時からは通常食に戻りました。

宮崎先生、Mさんお便り感謝。先生の送ってくださった本、すべてとっても興味深く読みました。今日は午後、夜、リラックスで届いた雑誌を読んで過ごしています。

6月28日 今日は「教育処遇日」の金曜日で免業日に準じて運動は室内のみ。9時から「教育放送」で交通事故、飲酒運転被害者の哀しみと苦しみの手記が読みあげられています。

週が明けるとはやくも7月になるので「夏期処遇について」の回覧が回りました。7月1日から①掛布団は大ビニール袋に入れてベッドの下に収納すること②拭身は入浴、運動のあとに各自開始。加えて夜7時に職員の号令で1回。水は洗面器2杯分。時間は3分。タオルをしばって拭くこと③冷茶の支給午後3時、休日は昼食後に配給④うちわの使用開始⑤殺虫剤、午後3時半に職員が号令を発するので希望者は報知ボタンを押すこと⑥7月1日よりパジャマ夏物に交換、パジャマを「暑い」とまくつたりしないこと⑦運動時タオル持参許可。八つ折りにして右手を持って出房すること⑧洗濯は夏スケジュールに添って出すようになどなど。7月1日には冬物貸与の下着パジャマを引きあげて夏に代わります。6月下旬は暑かったのに、今年は肌寒くカーディガンをはおっています。

Mさんの句も届いています。“テーブルのあじさい頭垂れかけん”“節電も原発も早や去年の夏”。関電側代表との地元での脱原発の斗いは続いています。支店長は「まず昨年の昨夏の節電協力への感謝を述べられました。節電も何も原発事故が発端。フクシマの一言も出てこない支店室長の話に唖然としました」とあります。

「産業界のもうけ」に一切の倫理を無視した安倍政権の原発再開、原発輸出がフクシマがなかつたごとく進むのと同一歩調で、原発各社の再稼働の動きが株主総

会でも反対を無視して進もうとしています。危険な政策は「アベノミクス」の「成果」の幻想をひろげて参議選突入。共産党に批判票を入れるしかないという国民の「政権担当能力のない野党」への思いも都議選から伝わってきます。

民主的に本当に立て直す願いと力は、地域住民を基礎とした陣地をしっかりと持つローカルな地域党（地域の協議体）をつくり、そのローカルパーティのネットワークの全国的連合・協力によってしか生まれることはできないでしょう。地域の暮らし、社会的問題を受けとめる政治こそ、実は国際的共通の政治を孕んでいるからです。強権とマスメディアの意図的な「世論」操作にふわふわする足腰のない政党は、第二自民党や自民党の補完に陥ることは、民主党の姿が示しています。十年先、二十年先を見据えて、これからは「次に勝つような負け方」が選挙でも問われつけます。参議選に臨む友人たちにそんな思いで熱く連帯します。

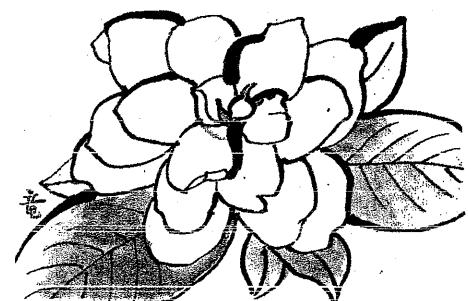
7月1日 今日から夏曆の獄。掛布団は大きなビニール袋に入れてベッドの下に収納。半袖パジャマに変わり、今日から拭身、殺虫剤スプレーも1日1回使えます。先週の月曜以来、雨と腸検査のため屋外運動に出られず1週間ぶりのベランダ。7月にしては肌寒かつたけどウォーキングすると汗一杯です。さっそく終了後拭身3分！

Kさん、みごとな花の作品の写真ありがとうございます。山シャクナゲ、母子草、野すみれ。そこに咲いている自然のまま。これでも「ドライブラワー」という作品カテゴリーなのですか？高い評価は当然ですね。「9条の会」もさらに盛り上げてください。まだ梅雨空ですね。Tさんの一句“つゆらしきつゆの調べはつゆの雨”。なかなかの腕前に刺繡されています。宮崎先生の「狂句乱信」お便りいただいています。お題は「痴話喧嘩」と「失せ物」の中から一句、“そうだった何も忘れてなかつた”失せ物は失せてなかつたのですね。“健忘症寄る年波がつのらせる”。

エジプトではムルシ政権批判で国は二分の様子。パレスチナ、イラク、シリア、アラブ全体の斗いはずっと続いている。日本に居たら見えにくくても。

7月2日 今日午後は綱引き大会。ちょうど快晴になり、1時間半ほどのスポーツイベント。懲役労働の方々中心で患者は氷冷えの麦茶を飲みつつテントの中、椅子に座って応援と観戦を楽しんでいました。

「季刊アラブ」「レコンキスタ」「死刑と人権」など、



いつもありがとうございます。Mさんお便りありがとうございます。読みたそうな本のタイトルみつけました。また貸してください。体調は大丈夫？喫茶店は順調ですか？

7月3日 今日は主治医の診察で治療の終了を伝えられました。

先週27日の大腸内視鏡検査の写真4枚（これまでのガン手術4ヶ所の痕の写真）を見ながら、今のところ大腸の方は取りきった状態を示し、また腫瘍マーカー（6/20の採血検査結果）も正常値範囲だったと告げられました。小腸ガン（2009年と2012年手術）は転移再発だったが、子宮ガンも4ヶ所取った大腸ガンも再発でなく「原発ガン」であったこと。ガンになりやすい体质なので、早期発見としては①半年に1回の潜血反応検査と腫瘍マーカーの血液検査②CTや超音波検査は半年から1年に1回③大腸内視鏡検査は1年から2年に1回が望ましい。刑務所では胸部レントゲン検査は1年に1回行うが、その他のことはわからない。今のところ再発も考え、移監先から「CVポート（鎖骨下に埋め込んだもの）を取り外してから来てほしい」と言われない限り、CVポートはそのままにしておきます。今は2週間に一度ポート洗浄を行っているが、マキシムには4週間に一度は移監先でも洗浄してもらう、とおっしゃった。

本当に、八王子に来て「PET検査」のおかげで見つけにくいガンも見つけて摘出することができ、今の健康に主治医に感謝しました。同じ八王子で厳しい死を迎えた丸岡さんを思うと、私は過去の不遇な患者たちの教訓や経験の上に治療を施され、また良い医師にめぐり会った結果だと思います。丸岡さんの場合は、ここ八王子ではまったく無理な治療であり、「執行停止」を拒んだ検察当局の責任です。今後の刑務所の医療と、これからどう向き合っていくのかを考えると、ちょっと大変そうです。

オリーブの樹 第18号

今日は房検査もありました。移監に備え荷物も整理していかないと……と思っているところです。

7月4日 予報では雨マークながら曇り空のまま。久しぶりのグラウンドでの運動です。ちょうど1ヶ月前の6月5日以来、雨や手術やらで出られませんでした。もう夏草も刈られて短いし、ネジ花はすこし枯れ、くちなしも盛りを終えていましたが、草の匂いを嗅ぎながらウォーキング。ちょっとズボンを湿らせてクローバーのところで座って柔軟体操。いい一時です。

今日から参議選がスタート。まだ拡声機の競い合いは聞こえていません。安倍政権自民党の危険な動きがわかっているながら、対抗勢力が不在というのが今の局面です。批判票は無力な社民党より共産党へと流れざるをえないのでしょうか。「3・11」を経て、民衆の力、静かな抗議だった「脱原発」は、遂に原発輸出セールスへと2年間にひどい変化。民衆の声は無視されています。

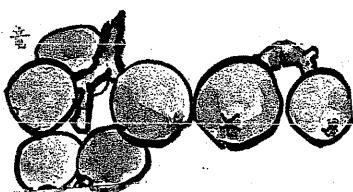
一方同じ頃起きたエジプトの変化は、再び民衆が声をあげています。大統領となったムルシが、去年の

「大統領令」で憲法案もござ押しして以来、国民を分裂状態にしてしまいました。そして民衆の側に立つボーズものと、今軍が介入しようとしています。軍は

自らの既得権に手を付かない新しい勢力の登場を画策するでしょう。民衆は「ムバラク派」も「同胞団やサラフィ主義者の今の強権」も望んでいません。しかし「反ムルシ・反同盟団」の斗いが、軍と旧ムバラク派の権力強化につながらないか、今は大事な時を迎えてます。これは中東全体の力関係にも作用しそうです。

日本の政治とダイナミズムが違いますが、日本も静かな斗いは続いています。選挙を含む友人たちの健斗に連帯！

7月5日 蒸し暑い曇り空。ベランダの運動を終えて受けとった新聞、7/4夕刊と今日の朝刊「エジプト軍クーデター憲法停止、大統領拘束」の記事。ああ、



やっぱり……。獄の時差で昨日はニュースもなしのプロ野球中継。でもきっと「48時間切れ」の軍の介入とはこんなことだろうと、エジプト情勢が気がかりでした。

ムルシ大統領と同胞団は自らを過信し、軍も野党も甘く見ていたのでしょうか。去年ムルシとムバラク派のシャフィーク大統領決選があった時、小差でムルシが勝てたのは、左派、リベラル派が「ムバラク時代に戻すな」という意志でムルシに投票したためでした。1年前ムルシは、軍政評議会の前での大統領就任式をよしとせず、タハリール広場で国民に、「同胞団だけでなく、すべての国民の大統領になる」と宣誓しました。

しかし昨年8月の大統領令で憲法のござ押しで、左派・リベラルの信任を失い、また軍の最高評議会議長を更迭して軍の怒りを買いつ、さらに憲法裁判所とはムバラク時代に任命された判事勢力とも対立していました。左派リベラルが鍵を握っていたのに、強権で乗り越えようと急ぎ過ぎました。旧ムバラク勢力は左派リベラルの「反ムルシ」に合流し、その動向に軍は自らの既得権を護るために国民を味方につけたクーデターです。

同胞団は地下活動の中で温存育成してきた諸階層のメンバーを、権力を握ったことで丸裸にして自分たちの国づくりさえ進めば国民は付いてくると思ってしまったのでしょうか。おごった宗教による政治の一元化は今問われつつ、新しい「国民的合意」を同胞団は再びつくれるでしょうか。それとも、軍は旧勢力を基盤に、行政府にちょっとリベラル・左派風を配してクーデターを「国民の意志」と正当化するのでしょうか。

民衆蜂起を弾圧しているサウジアラビアやUAE (United Arab Emirates アラブ首長国連邦)、湾岸王制諸国は軍事クーデターを讃え、欧米は「民主的手段」の回復を求めて本音ははつとしていて、今のところエジプトへの援助を再考する考えはありません。エジプトは、78年イスラエルとの「単独和平」以来膨大なアメリカの援助積けで、軍はその援助で産軍複合のコングロマリットを形成し手離す気はありません。衝突は不可避に継続革命を求め、このエジプトでの攻防は、また中東・北アフリカアラブ全域の力関係に反映しています。ムバラク派にも同胞団の政策にも反対し、革命継続を求める左派はどうしているのでしょうか。サラフィストらの一部は反軍武装叛乱を始めているでしょう。混乱は非妥協に続きそうです。

7月7日 昨日は梅雨明けの猛暑。「7・6事件」も

う44年前のあの日を鮮明に思い返しつつ反省をかみしめる梅雨明けでした。今日は初めて夏らしい快晴の青空。天の川も美しく織姫も彦星も良い夜を迎えるでしょう。七夕の快晴は久しぶりです。

日本は参議選。「自民党の躍進」ばかりの予測に危機感を持たざるをえません。共産党が批判勢力としてどこまで伸びるのでしょう。学生時代に批判論戦対立した共産党、「無謬の党」の自画自賛さえなければ、献身的な国民の味方として受け入れられるでしょうか、あくまで「批判票」の役割しか求められない日本全体の右傾化です。この選挙結果を経て、新しい統一の気運が、憲法をめぐって生れるでしょうか。

エジプトは荒々しい攻防と衝突で死者が何十人も出ています。激しくなるばかりです。まずムルシらの釈放こそ必要です。クーデターを「違法」と断じないで「衝突回避を」の国連事務総長の声明は虚しい。

7月8日 真夏日の陽が起床7時半からギラギラ。でも夏のクラクラする季節は慣れているし嫌いではありません。

「カラコロと光るビー玉取りだせずラムネの瓶を粉々

に割る」。デジカメ歌人の小暑の一首。子どもの頃の誰でも味わった記憶みたいな歌です。竜子さん、クチナシのみごとな絵、「香りも一緒に」届きました。こここの一本のくちなしの木は、たくさんの花をこの絵のようにつけて、もう盛りを終えています。キューピットおばさんお便りうれしく読みました(水戸さんのところ削除しなくてOKですね。ありがとう)。宮崎先生、88歳前に元気で最後の海外夏休み旅行のこと。まだ来年だって大丈夫!です。“折り取るや葵隣りの庭に咲く” Tさん体調万全ですね。

みんなの元気な便りが、私にワクワクと心忙しくさせてくれます。いっぱい友だちの顔を思い浮かべています。

次の「オリーブの樹」発行の時は、この縁の八王子には居ないかな……と思いつつ。

重信さんは2010年8月16日の刑確定後は通信回数枚数が制限され、(月5通、1通便箇7枚)、おもに親族と弁護士宛に通信されています。この「独居より」はその通信の「日誌」部分を編集室が抄出したものです。

★読んだ本のこと★

(「日誌」の中の読んだ本への記述を編集室が抜粋したものです。)

重信 房子

わかります。私の公判でも、何十年も昔に、仲間の一人が脅され混乱し、家族への弾圧をのがれようと屈して、公安のシナリオに合わせて、ありもしない何部かの供述書を取られていたことが、「ハーグ事件」有罪の柱とされました。彼は昔の供述がいかに矛盾に満ちたもので、どんな条件下で取調べられたかを私の法廷でも訴えましたが、裁判官は検察のシナリオ通りの判決文を書き有罪としました。今の日本の司法では、国家に反逆したものは厳しい現実です。

何よりも「八尾証言」について、彼女を名誉毀損で訴えていくのか、それとも、八尾さんに証言を正してもらうよう働きかけるのか、問われてくると思います。逮捕当時、孤立無援の中で、八尾さんが斗い、屈していったのは、「よど号」グループの責任もあります(本でもそのように言及しています)。「八尾証言」が、日本公安の手配に利用されている現実をくつがえす最良の方法は、八尾さんと出会いなおすこと、何とかできないのか……子どもたちのためにも、と読みつつ思いました。全力を尽くして疑惑を晴らしつつ今後のポジティブな戦略的展開には、帰國が必要と考えていると

思われます。そうした方が、子どもたちの世代を助けたり、また「北朝鮮問題」を解決する力を發揮できるかもしれないな、と思いつつ、「赤軍派」の楽しかったけど、ネガティブなかつての反省を現実の力に！ とエールを送ります。（5月10日）

『安井かずみがいた時代』を読みました。

さすがにプロの島崎今日子さんの構成と文章と切り口。面白く人生が終り合った20余人の安井かずみと近く交流した有名人の証言を通して、彼女の実像とその時代の空気を浮かび上がらせているものです。

「もうあんな人は出てこない」と多くの人が口にしたが、それは「もうあんな時代は二度と来ない」という言葉と同義語である”と著者があとがきで記している「あの時代」の一つのロールモデルが描かれています。きっと私たちと対極にいた人。それでも「革命」に熱中する前の私は、詞や詩に興味があったせいで安井かずみの訳詩はステキだと思ったものです。アダモの「雪が降る」が好きだった。でも岩谷時子の方が私は好きだったかな。

この本で、私が71年2月に日本を発つて以降の不在の時代のリッチでおしゃれな生活やスタイル、「学生運動」「変革」の波から「連合赤軍事件」や「高度経済成長」を経て、どんな世界が人々を魅了していたのか、かいま見ることができます。チャンスをつかんだ人、能力を生かせた人はその個性と財力を華麗な消費に還元し、そこに人間関係が築かれています。そのバブル化していく時代の華の位置に安井かずみと加藤和彦夫婦の生活スタイルがシンボルみたいにあったのですね。でも個人の自由も財力消費力に還元されていく満たされない結末を迎ってしまったように思えます。「自由」に反比例して「束縛」しあうような愛への転化。華麗なはずの恋を貫いたかずみと、恋の結末を背負って自死した夫。対等でも自由でもなくて、一方の犠牲と思い込みの上に花咲く……、でもそれが恋かもしれない。やっぱり恋より愛がいいかなあ……とミーハーの私としては面白く読みました。（5月11日）

『丸岡修自述』本受け取りました。

大部の厚い本です。風塵社はじめ尽力くださったみなさんにまず感謝します。丸岡さんの考えが詰まっている本です。しかし第二章「丸岡修出廷証言」のほぼ全面公開には賛成しかねます。もしこうした証言を使うなら、セレクトをきちんとしてほしかった。「略」とすべき「不必要なところ」が気になる。公判時、丸岡

さんの証言に、私は当初は何度も異議を伝えました。「しゃべりすぎだ！」と、丸さんは、「あなたの立場では100%白でも足りない。120%の無罪証明が必要なのだ。もし私が被告人質間に答えなかつたら検察の思うつづき。自分は自身の裁判方針の失敗を教訓に臨んでいるのだ。それに自分にとって、公の場で態度表明できる最後の機会と考えているのでやらせてくれ。長期腰を据えて病をおしても証言する」と、引きませんでした。

自らをいとわず無罪証言に尽力してくれた同志愛に何度も落涙しつつ、「またしゃべりすぎ！」と文句を言いつつ、約1年近い証言の時を共にしました。丸さんも時々、「ごめん、言いすぎ。すべつてしまつた」と詫びてもいました。長く会えずにいた再会のこの日々は何も貴重な時だったでしょう。

丸岡さんの本、彼の葛藤をとらえ返しつつ読み進めています。「黒の告白」からじっくり読んでいます。『日本赤軍私史』を読んで、丸岡さんは自分が逮捕されて以降の日本赤軍の歩みがよくわかり、自分の思いやりや考えと重なって嬉しかったと伝えてきました。何人もの人に読んではいと、この本を自分で購入して送ってくれていたことも後に知りました。丸岡さんも、彼岸に行く前に文章を書くと言ってたのですが、体調の悪化で書ききれませんでした。その想いをエッセンスとして「黒の告白」に記したと思いますが、自らの良心に正直に生きる彼の旅立ち準備だったと思います。賛成反対はこれまでのあり方の結果として受け、との彼らしく貫いたと思います。読んでいると、いろいろとらえ返し、時間を忘れて没入してしまいます。

ムムム……。374頁に下手くそな私の歌と絵！ 丸さんがいたら、また抗議が来るところです。メイに聞いたのですが、私の書く丸さんの似顔絵は実情を反映していないで、「いつも頭髪を実際より少なく描いている！」と怒ってたようです。以来、私の目から見て、ずいぶん多めに髪の毛を描くようにしてましたが、これは抗議のあった髪の少ない方です！（5月23日～24日）

・『「拉致疑惑」と帰国』（河出書房新社 2013年4月 定価1890円〔本体1800円〕）

・『安井かずみがいた時代』（集英社 2013年2月 定価1785円〔本体1700円〕）

・『丸岡修自述』（風塵社 2013年5月 定価2940円〔本体2800円〕）

日々雑感－2

2013年7月10日

萩尾 遼

していると考えるのは誤りでしょう。どんどん紙幣を印刷することによって、株価が上がり、その株価と連動して支持率が上がったにすぎないと思います。」

「このアベノミクス、日本では評価されていますが、海外での評判はそれほど芳しいものばかりではありません。たとえばアメリカの『ザ・ディプロマット(THE DIPLOMAT)』誌の主筆ジェームズ・バチ氏はその記事

（四月八日）で、アベノミクスはギャンブルであって、負ければひどいことになる、『(そのギャンブルに)勝つにせよ負けるにせよ、これから難しい局面が訪れる』と主張しました。」

海外ではこのような見方が多いということは、今朝の朝日新聞の記事にもあった。IMFのブランシャール調査局長が「アベノミクス」が「世界経済の新たなリスクだ」と指摘していた。ある意味、日本国内での甘い評価は、世界の非常識なのだろうと思う。

「結局、安倍氏の重要なねらいは、景気が上向いたと有権者に思わせることで支持をとりつけ、参院選での勝利やその先にある憲法改正につなげることにあるのだと思います。にもかかわらず、日本人の人たちがアベノミクスに期待してしまうのは『希望』を求めているからなのでしょう。そこには明らかに東日本大震災の影響が見受けられます。

日本は関東大震災（一九二三年）や阪神・淡路大震災（一九九五年）などの大災害をいくたびも経験してきましたが、東日本大震災は、長引く不況や政権交代後の民主党内閣への強い不信感から、だれもが大きな不安を感じているときに起こったという点で特異でした。また、大地震および津波による被害規模、そして同時に起こった壊滅的な原発事故という点でも、東日本大震災はそれまでの自然災害とは大きく異なっています。

そんなふうに日本人の人たちがほとんど絶望の淵にあるときに、第二次安倍内閣は誕生しました。多くの日本国民が、新政権に希望を見出したいと思うのも無理はありません。きわめて困難な時代をサバイバルするために、希望は非常に重要な因子です。アベノミクスは、そんな人々の切実な願いを安倍政権への支持に変換する装置になっています。しかし安倍政権でどこまでその希望がかなえられるのか、疑問ばかりが残ります。」



実に的を射ている指摘だと思う。

民主党政権交代の前、安倍・福田・麻生という自民党（自公連立）政権は、古い自民党政治をいたずらに続けることで国民の支持を失った。古い自民党政治と袂別する道を多くの人が望んだ結果が政権交代に結実したわけだが、民主党はあまりにも拙劣すぎた。官僚の抵抗や検察の陰謀もあり、東日本大震災と未曾有の原発事故にも拙劣な対応しかできず、失望と不信を巻き起こした。その結果が、衆院選で自民党は得票数

では減少したにもかかわらず対抗する陣営が無力だったがゆえに相対的優位にたって議席数では圧勝した。この状況は現在も続いている。しかし、紹介したようなことが当たっているとしたら、参院選後は、古い自民党政治が復活するだけでなく、アベノミクスのギャンブルがいつ破綻するかという局面に直面する可能性も高まる。不安と絶望の中でわらにもすがるような思いで安倍政権を仕方なく支持している人達は再び痛い目に会うことになる。

アラブ物語(23) —

「パリ事件」ハーグ闘争から日本赤軍結成へ—74年(1)

1 「パリ事件」の広がり

1) パリ事件—4人の逮捕

1974年7月26日、アラブ赤軍の仲間Yは、PFLPのレポを指示され、「ホンヤク作戦」再編などの日本人同士のアラブ赤軍の用事も重ねてペイールートからパリへと出発した。そして、パリオルリー空港で逮捕された。しかし、そのニュースは約一ヵ月後の8月下旬まで公けにはならなかった。PFLPとフランス当局による水面下の釈放交渉が続いたためであった。ペイールートの私たち日本人がそのY逮捕の情報を知るのは、2週間ほどたってからであった。しかも、第一報の電報で、それが婉曲に「病気で入院」と書かれていたために、本当の病気か、もしかしたら逮捕?!と半信半疑であった。また、欧州の仲間たちは仲間たちで、Y逮捕はパリで事件が収集に向かっていると誤った判断をしてしまった。

当初、Jは8月上旬にパリに到着した時に、パリでJの友人や連絡の役割を負っていたMが7月31日に尋問されたことから、Y逮捕を知った。JはMがもう釈放されたので、それで終わるだろうと考えていた。しかし、オルリー空港で逮捕された日本人の所持品の中にアウトサイドワークのアブ・ハニの手紙も何通か含まれていた。PFLPのレポとして出発した用件の一部であった。フランス当局としては、PFLPに関するネットワークを掌握することが、第一に重要であったらしい。尾行もし、分析もしていた。こうした動向に気付かず、8月20日にJらは逮捕された。Jらは安全を確認しながら、Iたちと会うためにカフテリアに入り、打ち合わせを始めたところ、包囲され拘束された。そのカフテリアの客のほとんどがDST

だったと、後にJは語っている。彼らは監視下にあつたのだった。MはIと会った後、友人と夕食をとり、自宅に戻ったところで、再逮捕された。事態の收拾を計っていたJら4人は、こうして8月20日に逮捕されてしまった。

パリに行くYにペイールートで細かく説明して送り出したJには、Yが何を押収されたか分かっていた。さらに、M宅で押収されたものも理解していた。その分、「それ以上被害が出ないように收拾する」つもりで、取調べに臨んだが、結局、どんどん自供に追い込まれていった。

Jは自分が逮捕されるいわれはないと、当初は、とぼけて対処した。しかし、結局J自身が指示した手紙がオルリーで押収されていたことなどから、追求に耐えられなくなり、アラブに居る者に責任を転嫁する形で供述することにしたという。アラブに居る重信らは安全なので、多少罪を転嫁してもかまわない。今、この窮地を脱出するのだと思ったと、後に語っていた。実際、私の公判に公開されたフランス当局に対するJの供述書にはそのような意図で書かれたのが分かる。始めの日付の取調べ調書では、「重信やI、Mらが赤軍の重要な役割を負っているが、自分はそうではない」と述べていたものが、その後になってくると、「自分はアラブ赤軍のNO. 1ではなく、NO. 2であり、重信がNO. 1である」と供述している。（当時は組織的に序列があったわけではないのだが。）

そして、後には自分が在欧での偽ドル手配を含め、ホンヤク作戦の指揮を負っていたと認めていた。Iともう一人は「自分は何も知らない」と主張し続けた。Mは、自宅からの押収物品とJの供述を補い合う形で

尋間に応えて供述した。その結果、在欧の日本人と関連のあった多くの友人や組織が逮捕・尋問されることになってしまった。

Jはフランスでの活動の場を失うわけにはいかなかつたし、解放放送局などの企画とそれに伴う人脉を隠したかったと後に述べていた。当時の私たちの個々ばらばらの質、思想性は他の人々や革命を守るものたり得ない水準であった。

その結果、Jは「仕方ない」とアシングループについてもフランス当局に供述し、自らアシエンのアジトにDSTを連れて行った。アシエンはブラジル革命組織のリーダーであり、フランスは政治亡命を認めていた人物だった。彼らはJの供述でフランスからの逃亡を余儀なくされた。

彼らは新しいブラジルの軍事政権に対抗するブラジル共産党創始者で、ソ連亡命中のプレステスらや、「解放の神学」のクリスチヤンや日系人も含めた統一戦線を模索している最中で、政治的に重要な時期にあった。

私たちの仲間の小さな自己防衛によってブラジル革命の大切な局面を破壊することになってしまった。以降、彼らは他の在欧地域を拠点として活動していくざるを得なくなった。しかし、フランスの指名手配リストのおかげで、合法性を奪われた分、活動を再建することは容易ではなかった。

後に、ちょうどハーグ闘争前後に、欧州から多くの仲間、共闘組織の人々が弾圧を逃れてペイールートに避難して来た。この時、アシングループの何人かもペイールートに辿り着いた。そして、Jが自分の釈放と引き換えにDSTにアシエンを売ったと激しく抗議した。アシエンらのアジトにDSTを連れて来たJをアパートの住人が目撃し、アシエンらに報告していたのであった。

しかし、こうしたY逮捕にはじまる在欧の仲間たちの苦境は、当時全くアラブサイドでは把握していなかった。在アラブの日本人もHやGやJなどがペイールートやパグダッドに避難ってきて、はじめて被害の実情を知ったのだった。

2) 広がる被害

当時、フランス側は水面下PFLPとのYや他のトルコ人、ドイツ人の釈放交渉にあたっていたので、逮捕を公にしていない。ところが、Yの逮捕から所持していた旅券や日本語の照会を受けた在仏日本大使館は、別の思惑で動き出した。日本人逮捕と日本への送還である。

日本大使館はYの「F・Y」の旅券が真正のものであることや、もう1冊同時に所持していた同名の旅券は、偽であることなどをフランス当局に伝えた。

これらの活動は、当時警察庁出向の在仏日本大使館員の国松孝次が居り、日本大使館側は即座にフランス当局がYから押収して問い合わせを受けた資料をコピーして日本に送った。これが後々まで「公判証拠資料」として、私の公判にまで提出されることになったものである。

当時、日本側は8月の4人の逮捕と数日後の4人の釈放に関しては、フランス当局から介入を許されず、Yの釈放の可能性があると危機感を持っていた。そのため、8月下旬になって日本の新聞にY逮捕をリークし、「パリ事件」は世間に公然化されてしまった。フランス当局はそれでも沈黙を守っていたが、8月29日、PFLPとの水面下の交渉の決裂と共に、Y逮捕を公表した。すでに釈放したJら4人については黙っていた。そして、Yの逮捕公表ばかりか、その後は次々と日本人、トルコ人、インドネシア人ら、他に多くの人を拘束しはじめた。

当時の日本の新聞のファイル（私の公判に検察側が私の罪状として証拠提出したもの）からたどると、正確ではない情報も含まれているが、以下のようない状態であった。フランスばかりか汎欧州規模の弾圧が続いたことを示している。

1974年8月24日、毎日（夕刊）がパリ大使館リークによる記事「過激派か不正旅券の日本人、パリの空港で逮捕」「中東から入国偽ドルも持つ」と、パリ特派員記事を載せた。真正のパスポート名が「F・Y」であり、その旅券を渡した2人が京都で逮捕されたこと、また「重信房子宛の手紙所持」などの他に、在欧の日本人が主導的に旅券調達を行っていたことなどの動きが書かれている。

8月25日、サンケイでは、「日本大使らの誘拐指令書持つ。パリで逮捕 謎の日本人。童顔の犯人（シンガポール襲撃）に酷似」「重信房子が出る？ 暗号交じりの日本文」

“パリ当局は、日本赤軍とパレスチナゲリラがヨーロッパにおける拠点をパリと西独のベルリンに置いていることを突き止めた”としている。

8月25日、朝日では、「丸岡修奪還めざす 重信房子が手紙で指示」などと、すでにこの段階で日本警察当局がホンヤク作戦を丸岡修の奪還闘争と、とんちんかんな分析をしている様子がうかがえる。

27日には、日本人パリ逮捕 特に所持していた3通の旅券はリッダ闘争の岡本公三のものと酷似してお

り、「岡本たちの偽造旅券については、①当面ペイルート近辺のグリラのアジトで作られた、②西ドイツのグリラ『バーダー・マインホフ』の身分証明書など専門に偽造するグループから入手した、などの情報はあつたが、確認されていない。しかし、欧州のいずれにあるパレスチナグリラ系の“秘密工場”で作られたことは間違いないと見られ、日仏両検査当局は、この偽造旅券の出所がグリラ組織を鮮明にするカギと見てゐる」としている。

8月29日、東京新聞では「重信指令とほぼ断定」として、「アジア大会襲撃準備工作?」などと、テヘラン襲撃などと日本側の新聞は想像であれこれと書きたてていた。

8月31日の毎日新聞夕刊で「これまで全く報道していないかったフランスの報道陣も、30日ようやくラジオ、新聞がこの事件を伝えはじめた」と、フランス当局側が公的に事件を表明したことを伝えている。「1ヵ月以上前から不可解な日本人がパリの警察に逮捕されている。この日本人は、ヤマモトマリコと、エバ・タルゴウラ（ドイツ人）と連携をとるよう指示されていた」と述べている。

また、9月1日、フランス当局は旅券偽造事件にともなう日本赤軍検査に関連して、パリ在住の日本人Mさん（本名）をペルソナ・ノングラータ（好ましくない人物）としてフランスから追放したことが記事となっている。8月24日に国外強制退去、その後イタリアのペルージャに滞在していたが、31日、ペルソナ・ノングラータとして、ローマから強制退去させられたことが載っている。

この間、オルリーで7月26日にYが逮捕されて以降、7月31日にMさんは一旦拘束され、釈放されていた。それが8月20日J・I・Fと共に再逮捕されたのだった。通常、国外追放から48時間、追放国当局はそれを明らかにしない国際刑事規定があるが、Mにそういう知識はなかった。そのため、48時間以上追放先の国内に滞在して、再度滞在先から追放される破目になっていた。

しかし、J・Iらはこの時、追放される行き先をベルギーに選び、自分たちは友人の万引きのとばっちりを受けた、などと非政治的理由を申し立ててベルギーに入国した。その上、ベルギー側から48時間を経て、フランスから通告されて追放されないよう、すぐにベルギーをうまく脱出した。これまで「ホンヤク作戦」の調査で、ベルギー・ドイツ・オランダ三国の山頂国境が自由に行き来できることを知っており、そこを通って脱出したのだろう。そのため、JやIらは行く人々を知られることがなかったために、新聞種にはならなかつた。一人Mだけが繰り返し新聞ネタにされた。彼女はJの指示に従つていただけで、事情にも疎かだったので、強制退去の時には、友人の居るイタリアを選び、イタリアでもパリから強制追放された理由を正直に話した。そのため、「政治的事件」の「好ましからざる人物」として、Mは日本当局と連携したイタリア・イスス当局の追放処分によって押し出されるように、行き場を失つた。そこで、はじめてペイルートに向かつた。前におくの仲間から非常時の避難先としてペイルートへ行くこと、その際の連絡先を聞いていたためであつた。

(つづく)

後書

「独居より」の5月12日の入力をしていてうれしくなった。重信さんは大相撲十両九枚目の“大砂嵐”的応援団だという。大砂嵐は大相撲初のエジプト人、アラブ人ということで話題の力士である。アラブ語の砂嵐は「ハマーフィーン」とのこと（5月25日）。十両だからまだTV実況画面には出ないが、7月7日、放送が始まった3時半直後、初日の取組みを録画放映していた。横のゆさぶり、引きにも対応して寄り切つて勝つた。やや腰が高かつたが西欧人に多い左右前後の弱点は少ないようだ。

中学3年間相撲部だった。隣家の1年上の長太郎さんに誘われて入部したが、145センチ40キロの小身軽量だから部担当の先生をいたく落胆させた。1年生の時は四股踏み、テッポウ、相手の胸に頭、脇に両手を当て、脇を締めてひたすらすり足で押すのみ。2年生になってやつとぶつかりと申し合せと実際の取組み。3年になって市内3校の対抗戦出場、公式戦記録は1勝2敗。県大会は逸した。

“まわし”は代々引繼ぎ、素肌に巻くので當時インキン。しかし、強い日本やアベノミクスや処理不能の原発輸出もなく、インキンは赤チンで快適。少年は平和だった。ビッグハマーフィーンがんばれ。Q

連絡先 〒105-0004 東京都港区新橋2-8-16 石田ビル5階

救援連絡センター一氣付 「重信房子さんを支える会」

郵便振替 00110-4-613941 オリーブの樹

頒布価格 500円

「正誤」表

第 118 号

- | | |
|--------------------|-------------------------------------|
| ① 2P左から4行目 | <u>再開→再会</u> |
| ② 8P(5/31)4行目 | 「ファミリーマスター」→「ファミリーマター」 |
| ③ 10P(6/13)右上から5行目 | 元CIA諸君→元CIA職員 |
| ④ 10P(6/15)下右から3行目 | イラクの解体と→シリアの解体と |
| ⑤ 14P(7/3)左下から6行目 | 「反ムルシ反同盟国」
→「反ムルシ反ムスリム同胞団」 |
| ⑥ 14P(7/5)右上から13行目 | しかし <u>昨年8月</u> →しかし <u>昨年11月</u> ～ |
| ⑦ 16P右上から4行目 | ～もし <u>私が</u> 被告人質問→もしあなたが被告人質問 |
| ⑧ 16P右上から15行目 | ～何も貴重な時→何と貴重な時 |
| ⑨ 16P右上から27行目 | <u>受け</u> ～→ <u>受けるとの</u> |
| ⑩ 19P右下から21行目 | ～が <u>パリ大使館</u> →～が <u>在パリ日本大使館</u> |
| ⑪ 20P右上から5行目 | ～国際 <u>刑事規定</u> →国際 <u>規定</u> |